

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成18年10月18日(水) 5校時
児 童 1年 男子14名 女子7名 計21名
指導者 大 森 禎 子

1 単元名

こえにだしてよもう「くじらぐも」(光村図書 国語下 ともだち)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」を受けて設定した。本単元の指導事項は、2年生でも学習する時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことや、場面の様子などについて、想像を広げながら読むことなどにつながるものである。

本教材「くじらぐも」は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生の子どもたちの前に、くものくじらが現れるところからお話が始まる。子どもたちとくじらぐもは、一緒に体操したり、お話ししたりしながら、徐々に心を通わせていく。そして最後には、子どもたちがくじらぐもに飛び乗り、一緒に大空を旅するというお話である。

この教材は、体育の時間という身近な現実の世界から、大空という広い空想の世界に入り込んでいくファンタジー色豊かなお話である。現実と空想が入り交じるこのお話の世界で、子どもたちは登場人物と一体になって、大空を真っ白なくものくじらに乗って旅する楽しさを味わいながら読むことができるであろう。

本教材での学習において、子どもたちとくじらぐもの行動や会話文に目を向けながら、それぞれの登場人物の気持ちに寄り添って音読させることで、場面の様子をより豊かに想像できるであろう。この教材で味わった楽しい読みの学習が、文章表現の面白さを感じ取ったり、他の様々なお話を讀んだりするきっかけとなるはずである。

(2) 児童について

物語文に関わっては、5月単元「はなのみち」において、「くまさん」が花の種が入ったふくろを見つけてから、花の道ができあがるまでの様子を挿絵や叙述から想像しながら、楽しく音読することができた。また、他の登場人物の様子についても、挿絵を見ながらとらえることができた。7月単元「おむすびころりん」では、登場人物の様子を想像し、リズムを感じながら楽しく音読することができた。

子どもたちは、ひらがなの書き方を一通り学習しており、ひらがなの読み書きはほとんどの子ができている。しかし、言葉をまとまりとしてとらえることについては、まだ不十分である。音読の際にも、経験不足から拾い読みになってしまい、文章を読むこと自体に困難を抱える子がいるのが現状である。また、文章を読み取ることについては、これまでの学習で、場面の様子を想像させるための手がかりになる言葉に丸印をつけ、叙述をもとに想像を広げていくことを意識させてきた。しかし、音読同様に個人差が大きく、文中から手がかりになる言葉をなかなか見つけられなかったり、自分の考えをもてなかつたりする子も少なくない。

(3) 指導にあたって

本単元の教材で、身に付けさせたい力は、体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読む、語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読む、である。

そこで、「つかむ」段階においては、教材文をすらすら読めるようにすることで、読み取りの基礎となる力をつけさせたい。

「ふかめる」段階においては、はじめに物語の大体をつかませるために、「いつ・どこで・だれが・何をした」の観点で、ワークシートにまとめる。ワークシートは穴埋め式とし、子どもたちが物語の大体をとらえるためのキーワードを文中から正しくつかめられるよう配慮したい。物語の大体をとらえた後には、様々な表現をとらえながら、読み取りを深めていく。本教材は、子どもたちとくじらぐもとの掛け合いが楽しいお話である。そのため、子どもたちとくじらぐもの行動や会話を対比していくことを学習の軸とし、心温まる交流の良さを味わわせたい。また、繰り返しや倒置法などによる文章表現の楽しさ、面白さにも着目させながら、場面の様子をより豊かに想像できるようにしたい。

「一人学び」では、読み取りの手がかりになる言葉を文中から抜き書きしたり、登場人物になりきって吹き出しに言葉を書いたりする活動を取り入れ、叙述をもとに場面の様子や登場人物の気持ちを想像できるようにしたい。「学び合い」では、一人学びによってもつことができた自分の考えをペアで対話する。ペアでの対話を通して、発表に対する自信をつけさせたい。また、自分とは違った友達の考えを知ることによって自分の考えをより深めさせたい。さらに、対話したことを全体に広めさせる一斉学習を通して、個々の学びを全体のものとしたい。

「まとめる」段階では、あったらいいなと思う雲を想像して、絵と文に表す。想像した雲と一緒にしたいことやお話したいことを考えさせることで、楽しく想像を膨らませられるようにしたい。またその際には、実際に空を見上げて様々な形の雲を見つけたり、雲にまつわる他のファンタジー作品を紹介したりして、想像を広げるきっかけとしたい。他のお話や友達の想像によって違った表情を見せる雲の姿に、子どもたちは興味をもって活動を進めていくであろう。

3 単元の目標

登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむ。
あったらいいなと思う雲を想像し、雲と一緒にしたいことやお話したいことを書く。

(1) 関心・意欲・態度

- ・声に出して読み、言葉の響きやリズムを楽しもうとする。

(2) 読む

- ・時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読むことができる。
- ・登場人物の様子や気持ち、場面の様子などを、叙述をもとに想像を広げながら読むことができる。
- ・登場人物の様子や気持ち、場面の様子に合わせて工夫しながら、声に出して読むことができる。
- ・「くじらぐも」を読んで、お話の中の出来事や登場人物の様子、気持ちなどを相手に分かるように話すことができる。
- ・あったらいいなと思う雲を想像し、雲と一緒にしたいことやお話したいことを書くことができる。

(3) 言語事項

- ・姿勢・口形などに注意して、はっきりした発音で話すことができる。
- ・文の中における主語と述語との関係に注意することができる。

4 単元指導計画と評価計画（14時間 本時9/14）

過程	時	目 標	具 体 の 評 価 規 準		
			B（概ね達成）	A（十分達成の一例）	C（努力を要する子への手立て）
つ か む	1	心に残ったところなど感想をもつことができる。新出漢字を練習することができる。	関：心に残ったことなどを、自分なりの言葉で伝えようとしている。（発言）	・意欲をもって物語を読み、心に残ったことや、みんなで学習したことなどを感想をもって伝えようとしている。	・友達の感想や教師の話から、お話についての感想をもたせ、学習の意欲づけをさせる。
	2	感想をもとに話し合い、みんなで学習したいことを考えることができる。	関：物語の時間の経過をもとに場面分けをしたり、学習したいことを考えたりしている。（態度）	・時間の経過や場所の違いなどをもとに場面分けをしたり、学習したいことを進んで考えたりしている。	・友達の考えからどんな学習をしていきたいか考えさせる。
	3	1・2の場面の音読をすることができる。	関：楽しみながら、すらすら音読している。（音読、態度）	・会話文と地の文の違いが分かるように音読している。	・追い読みを繰り返しながら音読練習に取り組ませる。
	4	3・4・5の場面の音読をすることができる。	関：楽しみながら、すらすら音読している。（音読、態度）	・繰り返しの表現を楽しみながら音読している。	・追い読みを繰り返しながら音読練習に取り組ませる。
ふ か め る	5	1・2の場面のおおまかなあらすじをつかむことができる。	読：文章の中心になっているキーワードをみつけ、子どもたちとくじらぐもとの出会いについて、あらすじをつかんでいる。（ワークシート）	・主語、述語の関係に気をつけながら、子どもたちとくじらぐもとの出会いについて、あらすじをつかんでいる。	・ワークシートにそって、文中からキーワードを見つけ出せるようにさせる。
	6	3・4・5の場面のおおまかなあらすじをつかむことができる。	読：文章の中心になっているキーワードをみつけ、くじらぐもに飛び乗るところからお別れまでのあらすじをつかんでいる。（ワークシート）	・主語、述語の関係に気をつけながら、くじらぐもに飛び乗るところからお別れまでのあらすじをつかんでいる。	・ワークシートにそって、文中からキーワードを見つけ出せるようにさせる。
	7	子どもたちのまねをするくじらぐもの様子を読みとることができる。	読：助詞「も」を文中からみつけ、子どもたちのまねをしているくじらぐもの様子をとらえている。 ・くじらぐもの行動から、くじらぐもが学校が好きな理由を考えている。（ワークシート、発言）	・文中の助詞「も」の働きに着目し、子どもたちのまねをしているくじらぐもの様子をとらえている。 ・くじらぐもの行動から、くじらぐもが学校が好きな理由を考えている。	・板書をもとに、くじらぐもが学校が好きな理由を短くても書かせるようにさせる。

	8	くじらぐもと子どもたちが声をかけあう様子を読みとることができる。	読：くじらぐもと子どもたちの会話文から、くじらぐもと子どもたちが声を掛け合う様子をとらえている。 (ワークシート、発言)	・くじらくもと子どもたちの会話文から、くじらぐもと子どもたちが互いに自分のいる場所へ来るよう誘い合っている様子をとらえている。	・くじらぐもと子どもたちがお話している言葉はどれか、板書から見つけさせる。
	9	子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由を考えることができる。	読：子どもたちとくじらぐもの行動や会話文をみついている。 ・子どもたちが、くじらぐもに飛び乗ることができた理由を考えている。 (ワークシート、発言)	・子どもたちとくじらぐもの行動や会話文から、くじらぐもに飛び乗る子どもたちの様子をとらえている。 ・子どもたちが、くじらぐもに飛び乗ることができた理由を詳しく考えている。	・板書やペアでの対話をもとに、子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由を考えさせる。
本 時	10	くじらぐもにのって空を旅する子どもたちの様子を読みとることができる。	読：くじらぐもがどんな様子で空を泳いでいるかとらえている。 ・くじらぐもの上でみんなが話した言葉を想像している。 (ワークシート・発言)	・くじらぐもがどんな様子で空を泳いでいるかとらえている。 ・くじらぐもの上でみんながしたことや話した言葉を想像している。	板書をもとに、子どもたちが話した言葉を短くても書かせるようにさせる。
	11	くじらぐもとお別れするときの子どもたちの様子を想像することができる。 ・くじらぐもは、どんなくもか考えることができる。	読：くじらぐもとお別れした時の子どもたちの気持ちを想像している。 ・くじらぐもは、どんなくもか考えている。 (ワークシート・発言)	・くじらぐもとお別れした時の子どもたちの気持ちを想像している。 ・くじらぐもはどんなくもか、叙述をもとに考えている。	友達の考えを参考にしながら、くじらぐもがどんなくもか考えさせる。
ま と め	12 13 14	あったらいいなと思うくもを想像することができる。	読：想像をふくらませながらあったらいいなと思うくもを絵と文で表している。 (ワークシート)	・楽しく想像をふくらませながらあったらいいなと思うくもを絵と文で表している。	・友達の考えを参考にしながら、自分も楽しく想像できるようにさせる。

5 本時の授業 (9 / 14)

(1) 本時の目標

子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由を考えることができる。

(2) 指導にあたって

本時は、文中の子どもたちとくじらぐもの行動や会話文を手がかりとし、子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由を考える時間である。次の点に留意し、指導にあたりたい。

「一人学び」の段階では、くじらぐもに飛び乗るために子どもたちが「したこと」を文中から見つけ、抜き書きさせる。また子どもたちとくじらぐもの会話文が何度も繰り返されていることや、子どもたちが飛んだ高さの変化(30センチ 50センチ とびのった)に着目させることで、子どもたちがくじらぐもに何としても飛び乗ろうと気持ちを高めている様子や、それを応援するくじらぐもの様子をとらえさせたい。そして、それらの読み取りを生かしながら、子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由について、自分なりの考えをもたせたい。

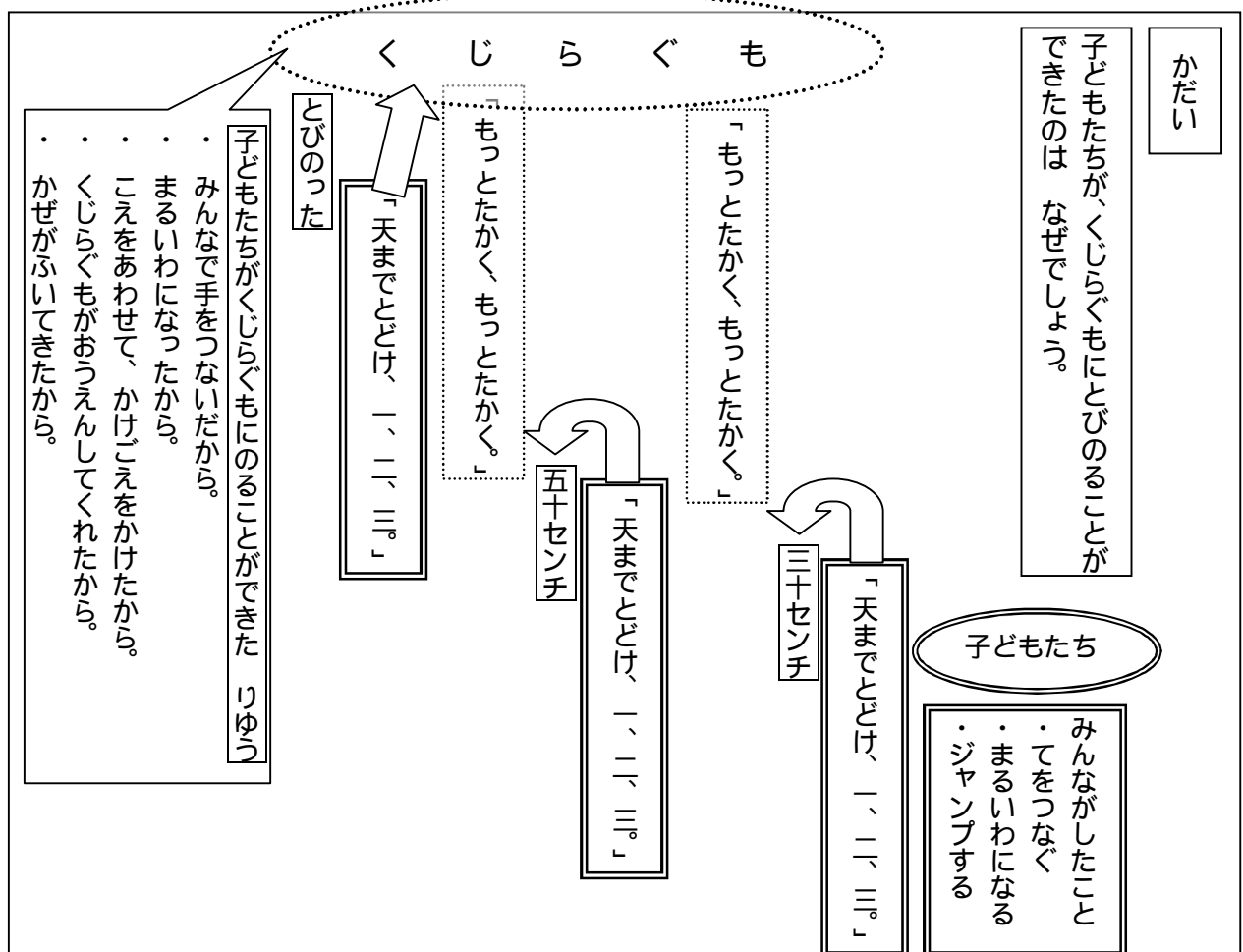
「学び合い」の段階では、子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由について、それぞれの考えをペアで対話する。対話の中で自分の考えを友達に伝えることで、発表に対する自信をつけさせたい。また、一斉学習を通して、友達の考えの良さにも気づかせ、くじらぐもに飛び乗れた理由はただ一つではなく、いくつもの要因が重なってできたことであることに気づかせたい。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 (準備する物)
と ら え る 5 分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。	・くじらぐもに飛び乗ろうとはりきっていた子どもたちの様子について確認する。 ・子どもたちとくじらぐもの行動や会話文を手がかりにしながら課題解決していくことを確認する。	・前時の学習掲示
	子どもたちが、くじらぐもとびのることができたのはなぜでしょう。		
ふ か め る	3 学習場面を音読する。 (3の場面) ・交代読み 4 子どもたちがくじらぐもに飛び乗るまでの様子をとらえ、くじらぐもに飛び乗ることができた理由を考える。 (1) 子どもたちが「したこと」をみつける。(一人学び) (2) 子どもたちとくじらぐもが「言ったこと」をみつけ、どのように言ったのか考える。 (学び合い)	・会話文と地の文との違いがよく分かるように音読させる。 ・手をつなぐ、まるいわになる、ジャンプするの3点をおさえる。 ・子どもたちが飛んだ高さの変化に着目させ、3回繰り返されている「天までとどけ、一、二、三。」はどのように言ったのか考えさせる。	【評価】子どもたちとくじらぐもの行動や会話文から、くじらぐもに飛び乗る子どもたちの様子をとらえている。(発言、ワークシート)

3 5 分	<p>(3) 子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由を考える。(一人学び)</p> <p>(4) 自分が考えた理由を対話する。(学び合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアごとに自分が考えた理由を対話する。(ペア学習) ・ペアで対話したことを全体に広めさせる。(一斉学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、短くてもいいから飛び乗ることができた理由を書くよう声がけをする。 ・友達の考えの良さに気づかせ、くじらぐもに飛び乗れた理由は一つではないことに気づかせる。 	【評価】子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることができた理由を書いている。(ワークシート)
ま と め る 5 分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について分かったことをまとめる。 ・学習の流れを、板書をもとに振り返らせる。 ・くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子について学習することを知らせる。 	

(4) 板書計画



ばめ ん	構成の要素	取り上げたい語句
<p>第1場面 子どもたちと一緒に体操をするくじらぐも</p>	<p>四時間目、運動場で体操をしている子どもたち。空に、まっしろい くものくじらぐも。</p> <p>子どもたち・先生とくじらぐもとの対比</p> <p>子どもたち・先生 「一、二、三、四。」 かけあいで運動場を回る とまれの合図。 「まわれ右。」の号令。</p> <p>くじらぐも たいそつをはじめる。 空をまわる。 とまる。 まわれ右をする。</p> <p>子どもたちのまねをしている くじらぐも</p> <p>「あのくじらぐも、きつとがつらうが すきなんだね。」</p>	<p>助詞「も」(子どもたちのまねをする くじらぐもの様子) くじらぐもたいそつを はじめました。 くものくじらぐも、空をまわりました。 くじらぐも とまりました。 くじらぐも、空でまわれ右をしました。 擬人法 (くものくじらぐに生命を与えている) あらわれしました。 はじめました。 のびたり ちぢんだり しんこきゅう もしました。 空をまわりました。 とまりました。 まわれ右をしました。</p>
<p>第2場面 こえをかけあう子どもたちと くじらぐも</p>	<p>子どもたち・先生とくじらぐもとの掛け合い</p> <p>くじらぐも 運動場に向かって 「おつい。」 空 「くじらぐも、おつい、おつい、おつい。」</p>	<p>助詞「も」 くじらぐも、こたえました。 くじらぐも、さそいました。 擬人法 こたえました。 さそいました。 繰り返し(互いに誘い合っている様子) 「おつい。」 「ここへ おいでよつ。」</p>
<p>第3場面 くじらぐもに飛び乗る 子どもたち</p>	<p>くじらぐもに飛び乗ろうとする 子どもたち。</p> <p>手をひなぐ。 まるいことになる。 ジャンプする。</p> <p>「天までとどけ、一、二、三」</p> <p>やっと二十センチべらいです。 「天までとどけ、一、二、三、三」 「天までとどけ、一、二、三」 「天までとどけ、一、二、三」 「天までとどけ、一、二、三」 「天までとどけ、一、二、三」</p> <p>た子どもたち。 いきなり あつとつう間に 手をつないだまま</p> <p>短い時間での出来事</p> <p>言葉の繰り返し。何としてもくじらぐもに乗りたいという気持ちの高まりの表れ。</p>	<p>繰り返し(なんとかくじらぐもに 乗りたい子どもたちと、それを応援する くじらぐもの様子) 「天までとどけ、一、二、三、三」 「もつと高く、もつと高く。」 擬人法 くじらぐも、おうえんしました。 かぜが、みんなをふきとばしました。</p>

第5場面 (P 1 2 ~ P 1 3)	第4場面 (P 1 0 ~ P 1 1)
<p>子どもたちとお別れし、空に帰っていくくじらぐも</p>	<p>空を旅する子どもたちとくじらぐも</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>心が通い合った 子どもたちと くじらぐも</p> </div> <div style="width: 60%; border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">あっとこの間の時間</p> <p>・ おや、もう おひるだ。 先生が おどろくと</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <p>・ みんなが手をぶった 「おひるかな」</p> <p>・ くじらは、元氣よく 帰っていききました。 「おひるかな」</p> <p>・ まわれ右を しました。 「では、かえろう。」</p> <p>・ 遠くまで旅していた くじらは、 「おひるかな」</p> </div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子どもたち・先生とくじらぐもとの対比</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子どもたち・先生とくじらぐもとの対比</p> </div> <div style="width: 60%; border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">空とくじらぐもとの対比</p> <p>みんなは、うたを うたいました。 (楽しさ・喜び)</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <p>くじらは、元氣いっぱい すすんでいききました。 (元氣・力強さ)</p> </div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>倒置法</p> <p>くじらは、あおい あおい空のなか どこまでも どこまでも すすみます。</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <p>(まっしろくもくへくじらぐも) (その中を進むくもくへくじらぐも) (さ)</p> </div> </div> <p>くじらが、勢いよく空を泳ぐ様子を強調している。 果てしなく広がる大空での楽しい旅</p>
<p>会話文(心の通い合いがうかがえる。)</p> <p>「おや、もうおひるだ。」</p> <p>「では、かえろう。」</p> <p>「さようなら。」</p> <p>「さようなら。」</p> <p>擬人法</p> <p>・ まわれ右をしました。</p> <p>・ みんなをおろしました。</p> <p>・ かえっていききました。</p>	<p>繰り返し</p> <p>・ あおい あおい空 (青く晴れ渡っている様子)</p> <p>・ どこまでも どこまでも (遠くかなたまで続いている様子)</p> <p>倒置法</p> <p>・ くじらは、元氣いっぱいすすんでいき ました。うみのほうへ、むらのほうへ、 まちのほうへ。</p> <p>擬人法</p> <p>・ すすんでいききました。</p>